

子どもの健全育成と、SDGsの目標のうち『貧困をなくそう』『すべての人に健康と福祉を』『質の高い教育をみんなに』の実現に資する活動への支援

「成績優秀で勉学への意欲があるにもかかわらず、経済的な理由で修学が困難な若者に対する奨学金給付」事業

奨学金の将来的な返済に苦しむ若者を減らすために 返済不要の奨学金を給付

成績優秀で勉学への意欲があるにもかかわらず、貧困などの経済的理由で学業を継続することが困難な日本国内の18歳以上の若者に返済不要の奨学金給付を行い、人材育成の推進及び福祉の増進に資することを目的とする「パチンコ・パチスロ奨学金」。給付生が社会で活躍することで、遊技業界の社会的地位の向上にもつながっていく。

パチンコ・パチスロ業界関係者の会費や 遊技客からの寄付を財源とする奨学金給付

現在、日本の大学に通う学生の半数以上は奨学金を利用しており、その約3分の1は日本学生支援機構の公的な奨学金の利用者とされている。しかし、こうした奨学金のほとんどは「貸与型」、つまりは借金であり、その返済に苦しむ延納者や滞納者は年々増え続けているとされている。また、2020年に発生した新型コロナ禍や最近の諸物価高騰の影響もあり、経済面で苦しい環境に置かれている学生はさらに増えてきているのが現状である。

パチンコ・パチスロ業界では、早くからこうした奨学金の問題に着目し、2016年に社会福祉法人「さぼうと21」の協力を得て「パチンコ・パチスロ奨学金（pp奨学金）」制度を設立し、返済を求めない給付型奨学金事業を開始

した。2021年からは一般社団法人「パチンコ・パチスロ奨学金」としてこの事業に取り組み、公益法人化を目指した活動を行っている。本事業の財源は、遊技業界関係者の会費・寄付のほか、遊技客から寄付された『募玉・募メダル』だが、ホール数の減少などにより、それが減少の一途をたどっているのが実状である。給付対象者は、国内の大学院（修士課程まで）・大学・短期大学・専門学校・高等専門学校に在籍する原則18歳～30歳の日本在住の学生で、経済的な理由で修学が困難な学業優秀者である。給付額は月額3万～5万円で、年6回振り込まれ、学生にはハガキで近況を報告してもらっているが、それをホームページなどで紹介しており、それを読んだ関係者からは、経済的に苦しい学生を支援することの意義を感じるという声が多く寄せられている。



給付生を募集するポスター



パチンコ・パチスロ奨学金の給付式

助成団体:一般社団法人 パチンコ・パチスロ奨学金

<https://www.ppsgk.jp/>



2024年度も給付生に前年度並みの奨学金を渡すことができました

POSCからの助成は、寄付金や会費収入が減少傾向にある当奨学金の運営にあたって、非常に貴重なものになっています。感謝の念に堪えません。今後も変わらずのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

一般社団法人 パチンコ・パチスロ奨学金
理事長 吹浦 忠正さん

子どもの健全育成と、SDGsの目標のうち『貧困をなくそう』『すべての人に健康と福祉を』『質の高い教育をみんなに』の実現に資する活動への支援

「新潟コミュニティフリッジを通じての ひとり親家庭への食料支援」事業

24時間、365日利用できる共同冷蔵庫を設置・運営し、 生活困窮世帯やひとり親家庭の子どもたちに食の支援

経済的な理由で十分な食事を確保できないひとり親家庭などが少なくなく、子どもの栄養不足や孤立化が社会問題となっている。「フードバンクつばめ」では、時間や人目を気にせずに利用できるコミュニティフリッジを設置・運営することで、育ち盛りの子どもたちにバランスの取れた食事を提供するとともに、地域の支援体制の強化に努めている。

月当たり200～250世帯のひとり親家庭に 農協から購入した食品を提供して支援

新潟県燕市に本部を置き、同市内の2ヵ所（宮町、仲町）に拠点を構える「フードバンクつばめ」は、主に市内に暮らす生活に困窮する母子家庭や生活保護世帯などを対象に、コミュニティフリッジ（寄付された食品を受け取れる共同冷蔵庫）、子ども食堂、フードパントリー、無料塾つばめ寺子屋、学用品リサイクル、子どもの遊び場、生活用品支援、ママの休憩室など、様々な支援活動に取り組んでいる。

当団体では、2024年5月～11月の7ヵ月間、新潟県で初となる「新潟コミュニティフリッジ」を通じて、月当たり200～250世帯の経済的困難を抱えるひとり親家庭に対して食料品の提供を実施した。これまでもフードパントリーなどに

よる支援を行ってきたが、ダブルワークなどの仕事の都合や「周囲に見られたら恥ずかしい」といった理由などから、利用を躊躇する家庭が少なかった。こうした課題を解決するため、24時間、365日いつでも利用できるコミュニティフリッジの導入を決定し、実施することにした。

利用者は原則的に18歳未満の子どもがいる家庭（生活保護や児童扶養手当を受給、もしくは相当水準収入世帯）で、事前登録時に渡されるスマートキーを使い、仲町拠点内に設置された冷蔵庫から都合の良い時間に、誰にも合わずに食料品や日用品を受け取ることができる仕組みとなっている。食品は地域の方々やフードバンクからの提供品が中心だが、特に不足しがちな生鮮食品や冷蔵食品などは、POSCからの助成金を活用して地元農協から月2回購入することが可能になった。



24時間、365日いつでも利用できるコミュニティフリッジ



設置された冷蔵庫から食料品や日用品を受け取ることができる

助成団体:特定非営利活動法人 フードバンクつばめ

<https://foodbank-tsubame.org/>



ひとり親家庭の子どもたちに栄養バランスの取れた食料を安定的に提供

今回の助成で生鮮食品の購入が可能になったことで、保護者から「安心して食べさせられる」と喜びの声をいただきました。また、地元農協を通じて生産者の方々ともつながることもでき、地元の支え合いの輪が広がりました。

特定非営利活動法人 フードバンクつばめ
理事長 青柳 修次さん